

伊吹山をめぐる諸課題についての提案

令和2年1月20日

ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

会長 高橋滝治郎



1 入山協力金の山頂での徴収について

(1) これまでの経過

入山協力金は平成26年度の試験導入の後、本格的に運用されて現在に至るが、最も利用者が多いドライブウェイ利用者対象とした山頂での徴収員を配置した入山協力金の徴収は平成26年度のみ実施され、その後は募金箱が設置されているだけで呼びかけは行われていない。このため平成27年度以降の入山協力金の収入は次のとおり激減した。(米原市HPより)

平成26年度	協力者 79,450人	収入金額 23,839,000円
同 27年度	41,000人	12,312,000円
同 28年度	45,000人	13,819,617円

(2) 課題・問題点

ア 任意の協力金とはいえ、表登山道では徴収員がお願いをして概ね8割を超える登山者から協力を得ている一方で、ドライブウェイ利用者は遊歩道入口に募金箱が設置されているだけで利用者にはほとんど認知されず、協力者の割合は極めて少ない。同じ伊吹山を利用する者への入山協力金の徴収対応が、表登山道利用者とドライブウェイ利用者との間に徴収が困難と言う特段の理由もない中で大きな差がある。このことは、協力金制度の運用として不公平で問題があると言わざるを得ない。

イ 平成27年度に実施された「伊吹山入山協力金に関するアンケート」(米原市HPより)のドライブウェイ利用者の回答では、全員からの徴収(強制徴収)が51%、任意徴収が48%で、徴収反対は1%に止まり、金額も回答者の49%が現行の300円が相当と回答していることから山頂での協力金の徴収には理解が得られていると判断できる。

さらには自由回答欄では、花の少なさに残念、しっかり対策をしてほしいという声が多いことから、入山協力金を基にむしろその対策を求められていると思われる。

このまま効果的な対策をできない場合は、お花畑の衰退・消滅によって伊吹山来山者の更なる減少は避けられないと思われる。

山頂植物群落は、文化財保護法に基づく天然記念物に指定されているが、同法第119条は天然記念物の所有者の管理復旧責任を規定し適切な保全管理を求めている。しかしながら、このまま適切な対策が講じられなければ、植生の衰退により同法第112条の規定による天然記念物指定解除も危惧される。指定解除がマスコミ等で取り上げられれば、伊吹山に対するマイナスイメージの大きさ、観光への打撃も計り知れない。

ウ 伊吹山全体の生態系の深刻な被害に対する対策経費の増高のためには、協力金のさらなる増収対策は欠かすことができない。現状では、必要な対策に十分な財源が確保できず、特にニホンジカなどの強烈な生態系への被害対策が後手後手、いや多くが手をつけられていない状況にある。(別添資料1~2ページの伊吹山の写真参照)

その結果、県内の鈴鹿山系のような極めて深刻な生態系の被害を招きかねない。(別添資料

3 ページの靈仙山の写真参照)

(3) 対応案の提案

以上のことから、来年度から山頂での入山協力金の徴収については、制度創設当初のように徴収員を配置して、利用者に協力を呼びかけるべきである。シーズン全期間が困難であれば、当面は少なくとも利用者が最も多くなる5月のゴールデンウィーク、夏休み期間において徴収員を配置して協力を呼びかけることとする。

あわせて、観光バス利用者の中には環境保全意識の高い利用者も多いことから、ツアー会社に対し協力金のお願いを行うものとする。

幸い、平成26年度以降の伊吹山における入山協力金制度は全国的にも注目されその認知が広がっていることから、しっかり説明することで多くの利用者の協力を得られるものとする。

2 「夢高原かっつび伊吹」における入山協力金徴収など環境保全への適切な対応について

(1) 現状と課題

令和元年9月1日、第33回を数える歴史ある「夢高原かっつび伊吹」が開催され、1,209人の参加があった。現在のトレランブームの遙か前の昭和の時代から続く歴史があり地域の活性化にもつながる大会の継続について、関係者の皆様のご努力に敬意を表する。

しかしながら、一日の短時間に1千人を越えるランナーが狭い登山道を駆け上がるこのレースの自然環境、植生への負荷の大きさは想像に難くない。ニホンジカの異常繁殖などによる登山道の崩壊が進む中、この大会の実施により更なる悪影響が心配される。

このような中、残念ながら本大会関係者による環境保全対策は確認できず、令和元年の大会の前には特に登山道の崩壊が見られる7合目から9合目にかけて、地元上野区の有志で登山道の更なる崩壊防止とランナーの安全を図るため鉄杭とロープによる正規登山道のコース明示を行った。(別添資料2ページの登山道補修写真参照)

本大会の参加料には入山協力金は含まれておらず、大会の募集要項に入山協力金の協力呼びかけは記載されているものの、その協力者の割合は伊吹山登山口の80%以上の徴収率に比較して極めて低いと聞いている。また本大会から環境保全対策に対する支援の経費支出はなく、この大会の伊吹山の環境保全に対する配慮は十分でないと言わざるを得ない。

一方で、富士山で開催される富士登山競争(令和元年で第44回)においては、参加料について「山頂コースにおいて富士山保全協力金(注:1,000円)を含む」と明示され、極めて明確に富士山の保全に協力する姿勢を示している。このことについては、参加者の理解もあり申込者も申し込み開始20分ほどで定員一杯となる人気である。

(2) 対策の提案

昭和から平成、そして令和の時代となり、登山者、トレラン参加者の自然環境保全に対する意識は高まっており、入山協力金という仕組みも伊吹山だけでなく、全国的に拡大し定着しつつある。このことから入山協力金を「夢高原かっつび伊吹」の参加料に含めることで自然環境保全を支援する誇れる大会であることをPRでき、このことは参加者の理解を得られ参加者減少にはつながらないものとする。むしろ、参加者にとっても、伊吹山の環境保全にも努める大会ということで気持ちよくレースに参加できるのではないかと推測する。

これらのことから、「伊吹山を守る自然再生協議会」として、夢高原かっつび伊吹事務局に対して、令和2年度大会から参加料に入山協力金を含めるなどの伊吹山を守る必要な対応を講じられるよう、要望をされることを提案する。

3 滋賀1周トレイルの課題、問題点について

令和2年1月4日の朝日新聞に「滋賀1周トレイル」開催の記事があった。(別添資料4ページ参照)

この記事によると、大津から出発し比叡山、比良山、高島トレイル、余呉トレイルを経て伊吹山地へ、そして鈴鹿山脈から東海自然歩道を通って大津に戻るというもので、トレラン愛好者の団体がルートを整備したこと、さらに昨年5月に続いて今年5月にもプレ大会を開催し、2021年に本格的な大会を実施する予定と記載されている。

このことについては県内の自然環境保全団体などから、次のような課題や問題点が指摘されている。また、伊吹山に関しては入山協力金徴収の課題も発生する。「伊吹山を守る自然再生協議会」、そして事務局を持つ滋賀県や米原市としても、この件については大いに関心をもって注視し、課題、問題点を指摘し、指導すべきものとする。

《この事業に関する課題、問題点》

1 県内各地域では、登山やエコツーリズムを推進する中、登山道等の施設整備、安全対策やその普及啓発、自然環境の保全対策、地域資源の活用、地元との協議・調整などに取り組んでいる。しかし、滋賀1周トレイルではこれらの取組を行う市町や地域団体等と十分な調整や協調を行わないままに、それらのフィールドを利用している。

2 トレイルランは自然環境や他の登山者等に及ぼす影響が大きいため、場所や期間を限定して実施することが原則と考えられるが、このような全県的なトレイルを新聞等でPRすれば不特定多数の利用者が常時入ることが想定され、自然環境へのダメージや他の登山者への影響が懸念される。また、大規模な大会を全県的に行うことによるこれらへの影響も大きい。

3 県内各地域では山岳遭難対策協議会を設置し、遭難救助や安全対策及びその普及啓発を行っているが、近年の登山ブームによる負担が増加している。こうした中で滋賀1周トレイルにより不特定多数の利用者が広範囲に入ることによる道迷いや山岳事故等が増加し、各地の山岳遭難対策協議会のさらなる負担増が懸念される。

4 登山道等の施設整備にあたっては、市町や地域団体が地元や土地所有者の理解と協力のもとに進めているが、滋賀1周トレイルはこれらの既存施設を利用するにあたり、関係市町や地元と十分な理解と協力が得られていない。また、新たなルート整備を行っているが、必要な手続や地元との調整が十分に行われているとは言えない。



こころ、人生に思いを馳せる
仏壇 一心堂
伊賀市南町野田5-3-10 TEL:077-566-6600

大津支店 TEL:077-566-6600
長浜支店 TEL:077-566-6600
近江八幡支店 TEL:077-566-6600
今津支店 TEL:077-566-6600



昨年開いた滋賀一周トレイルを使った
ブレ大会で、比叡山を走る参加者



標高1000m前後 山つなぎ436.9km

湖国ぐるり壮大トレイル

県を囲う標高1000m前後の魅力山々をつなげて一周するトレイル(自然道)を、NPO法人が整備した。通称「シガイチと呼ぶ」滋賀一周トレイル(全長436.9km)。自転車や登山車一周する「ヒワイチ」に続く定番ルートにしようと、2021年に大会も計画している。

悪路と格闘 藪刈り50日

起点は県西部の大津港の「東海自然歩道」を西に(大津市)。時計回りに進行、大津港に戻る。琵琶湖を中心に、美しい自然の中だ。京都府に少し入り、大文字山から「京都一周トレイル」へ。延暦寺がある比叡山を経て比叡山地の最高峰・武奈ヶ岳(1914m)を縦走する。

1人の挑戦 起点

福井県境に近い「高島トレイル」を北東に進み、琵琶湖北部の「余興トレイル」に接続。岐阜県境を進み、滋賀県最高峰で日本百名山の伊吹山(1377m)を通り、三重県境の鈴鹿山脈へ。御在所岳(1212m)を経て滋賀県南部の約140kmを2日間で走った。ブログに書くほど編集



近藤淳也さん

その半年後、京都で開かれたトレイルランの大会で、



刈り払い機でササを刈ってトレイルを整備する近藤さんら。米原市、しげれもNPO法人滋賀一周トレイル提供

主催者の成田直隆さん(49)と出会う話があった。アウトドア店員の成田さんは大津市在住。中学生の頃に県内で見たドライブアスロン大会のワクワク感が忘れられず、滋賀でも大会を開きたいと願っていた。

18年、シガイチを普及させるNPO法人「滋賀一周トレイル」を発足。成田さんが代表理事。近藤さんは副理事長に就いた。

普及には課題があった。県北東部の悪路だ。古い道は荒れた。近藤さんらはチェンソーや刈り払い機で50日かけて藪を刈った。延べ180人が協力してくれ

特に難航したのが伊吹山北側の稜線だ。何度も作業して歩けるようになった。青葉を踏み、グーグルマップ「笹刈山」と名付けた。

21年の大会計画

NPOは、21年にシガイチを走るトレイルラン大会

【本格的】ナイター照明付
ショートコース
12ホール
2,000円～2,500円
オール天然バターの焼酎

あすの暦

1月5日	05:58
1月11日	7:16
1月12日	8:18
1月13日	9:09

の開催を目指している。昨年の黄金週間に8日間、一周するブレ大会を開き、約30人が参加。今年もブレ大会を実施予定だ。

確かな品質、安心価格
松居石村商店
彦根市元町(護国神社前)

伊吹山の深刻な獣害による植生被害

柵の外側（右手）と内側（左手）を比較すると、外側はほとんど植物がない。（H30.8.5）



山頂 獣害対策経費が不足し維持管理が困難 当然、花もない（R1.8.22）



伊吹山7合目付近 大規模に斜面の裸地化が進む（H30.6.5）



伊吹山 6 合目付近ニホンジカの群れ (H28.8.12)



「夢高原かっとび伊吹」前の地元有志による登山道の保全措置

7合目付近 獣害で斜面や登山道が崩壊し、緑のロープで登山道を規制・保全 (R1.8.22)



8合目付近 獣道などを登山者が利用し植生の衰退を進めるため、ロープで規制 (R1.8.22)



平成15年と29年の霊仙山山頂の比較 ニホンジカの食害の影響などで植生が極めて衰退

以前は背丈を越える笹で覆われていた山頂部分は、写真のとおり笹は皆無で植生の衰退が深刻。大規模な笹枯れそのものは様々な影響が指摘されるが、少なくともその後の植生の復活がほとんど見られないことについてはニホンジカの食害の影響を大きいと推測される。伊吹山も早急に効果的な対策を実施しないと、このような結果を招きかねないと危惧される。

